

環境倫理の諸問題（1）

Overview

- * 環境問題の認識
- * キリスト教と環境問題をめぐる歴史的背景
- * 環境問題に対するキリスト教の応答
- * まとめ——課題と展望

自然に触れる——私の体験から

- * 虫取り（虫・魚・小動物の飼育）の経験
- * 五感を使う。カイロスの気づき。ただ生きること。
- * 生物多様性、システムとしての自然（無数の要素と全体の安定性）
- * 壊すのは簡単。しかし、人間は細胞一つさえ作ることはできない。
- * 【参考】 養老孟司『いちばん大事なこと——養老教授の環境論』集英社、2003年（集英社新書）。小原克博「蟬時雨——「時」の変奏曲」（『京都新聞』「現代のことば」2006年8月30日）。☞ 小原克博 On-Line

環境問題の認識

エコロジーとは

- * もともとは生物とそれを取り巻く環境との関係を研究する生物学の一分野。生態学。
- * ドイツの動物学者E・ヘッケルが1866年に著作の中で用いたのが最初。
- * 自然保護運動の高まりと共に、今では生物学の領域を超えて、広く環境保護という意味でも用いられるようになる。

エコロジーに関連する言葉・テーマ

- * 語源はギリシア語の「オイコス」（家）
- * エコノミーも同様。
- * 環境問題と経済問題は表裏一体の関係にある。
- * 「地球にやさしい」？
- * 人間の倫理・食の倫理・動物の倫理の一体性

環境問題における先駆者（1）

* レイチェル・カーソン（1907-1964）

* 『沈黙の春』（1962年）

* 「アルベルト・シュヴァイツァーに捧ぐ。シュヴァイツァーの言葉——未来を見る目を失い、現実先んずるすべを忘れた人間。そのゆきつく先は、自然の破壊だ」。



環境問題における先駆者（2）

* アルベルト・シュバイツァー（1875-1965）

* 生への畏敬の倫理：「私は、生きんとする生命にとりかこまれた生きんとする生命である」という事実（『文化と倫理』（著作集第七巻）311頁）

* 「われわれが〔倫理的〕葛藤をいよいよ深く体験するならば、われわれは真理のなかにある。疚しくない良心などは、悪魔の発明である。」（同書、322頁）

* 生命中心主義の先駆者的役割を果たす。



環境問題における先駆者（3）

* 神の信託管理人思想

* ウォルター・C・ラウダーミルク（1888～1974）：第十一戒「汝、聖なる大地を、忠実なる僕（steward）として神より相続し、世代を次いで、その資源と生み出す力とを守るべし」。

* 生命中心主義：生命あるいは生態系が最優先される。人間の価値は相対化される。ディープ・エコロジー。

* 動物権主義：「動物の解放」運動（ピーター・シンガーら）

キリスト教と環境問題をめぐる 歴史的背景

キリスト教と自然

* 道徳的指標としての「自然」（→自然法、自然神学）

* 野蛮としての「自然」

* 「黒人のもとでの奴隷制度のありかたからみちびきだせる、わたしたちにとって興味のある唯一の教訓は、自然状態というものが絶対の徹底した不法の状態である、という理念の正しさです」（ヘーゲル『歴史哲学講義』）

* 自然は人間によって支配されるべき対象。

原生自然に対する態度

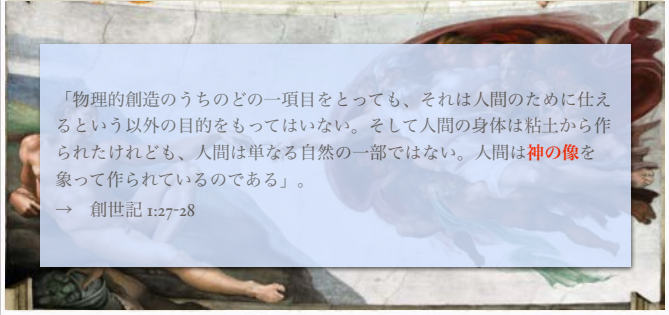
* キリスト教的伝統の中では、「原生自然」（wilderness）は、呪われた大地、楽園の対極と見なされた。

* 「原生自然」やそこに生息する野生動物に対する適切なキリスト教的態度は「征服」「鎮圧」であった。

キリスト教の生態学的責任

- * リン・ホワイト論争：1967年、*Science* 誌に掲載された下記論文がきっかけ
- * リン・ホワイト・ジュニア「今日の生態学的危機の歴史的源泉」（『機械と神——生態学的危機の歴史的根源』みすず書房、1999年、所収）
- * 生態学的危機の原因は、キリスト教の人間観・世界観にあると指摘した。

リン・ホワイトの主張



「物理的創造のうちのどの一項目をとっても、それは人間のために仕えるという以外の目的をもっていない。そして人間の身体は粘土から作られたけれども、人間は単なる自然の一部ではない。人間は**神の像**を象って作られているのである」。

→ 創世記 1:27-28

創世記 1:27-28

神は御自分にかたどって人を創造された。**神にかたどって**創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。

「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて**支配せよ**。」

神の像 (Imago Dei) とは？

【参考】小原克博「『神の像』に関する一考察——フェミニズムとエコロジーへの応答」、『日本の神学』第37号、1998年、33-54頁。☞小原克博 On-Line

リン・ホワイトの主張

- * 「キリスト教の、とくにその西方的な形式は、世界がこれまで知っているなかでもっとも**人間中心**的な宗教である。……キリスト教は古代の異教やアジアの宗教（おそらくゾロアスター教は別として）とまったく正反対に、**人と自然の二元論**をうちたただけではなく、人が自分のために自然を搾取することが**神の意志**であると主張したのであった」。
- * 「自然は、人間に仕える以外になんらの存在理由もないというキリスト教の公理が斥けられるまで、生態学上の危機はいっそう深められつづけるであろう」。